

輪島市三井地区における農村景観の保存・活用手法に関する研究

○大西 広司 (東京農業大学)

鹿島 善晴 (東京農業大学)

恵谷 浩子 (東京農業大学大学院)

麻生 恵 (東京農業大学)

本研究の対象地である石川県輪島市三井地区は、豊かな山林を背景に茅葺き屋根の民家が点在する美しい田園地域である。近年「文化的景観」の制度が成立するなど、農村景観に対する関心が高まる中で、地域固有の景観の保存や活用がますます求められている。その為にはまず、地域の景観特性を把握し、その価値を評価する必要がある。三井地区に関しては、平成4年度観光資源保護調査として「能登・三井茅葺き民家調査」、また平成17年度文化的景観・民族技術調査として「輪島三井大沢・上大沢調査」が行われている。しかし、それらは茅葺き民家に特化した記述が多く、集落景観に関してはその構造を大きく捉えた段階にすぎない。そこで、本研究では三井地区内の9つの集落に関して、景観の現況を把握し集落レベルの特徴や価値を抽出した。その結果、三井地区では住居の外壁や屋根の素材が統一されていることや、適切な生産活動が行われていることなどが魅力ある農村景観の維持へつながっていることが明らかとなった。一方で改善すべき景観阻害要素も把握された。そして、それらをふまえ、今後の文化的景観選定も視野に入れた保存・活用の方向性や課題を検討した。なお、本研究は東京農業大学造園科学科自然環境保全学研究室の活動として行われたものである。

棚田における景観体験構造に関する研究

○高梨 夏美 (東京農業大学 地域環境化学部 造園科学科)

麻生 恵 (東京農業大学 地域環境科学部)

本研究の目的は、日本の棚田においてより効果的な体験をするための棚田のあり方を明らかにするものである。

背景として、棚田でのさまざまなイベントや農業体験が数多くなされるようになり、棚田を対象とした観光に力を入れる地域も多くなってきた。まだ残されている棚田をこれからも存続させ、さらにより良い体験が出来るようにすることが必要である。そのために農家の方をはじめとしてボランティアや観光客など多様な主体にとって、良好だと感じる棚田体験がどのようなものであるかを明らかにする。主体の違いにより、良好な棚田体験には違いが出てくると思われるので、それをふまえて各主体にあわせた棚田体験のプログラム、棚田の整備方法（遊歩道や展望台の整備）のモデルを作ることを目的とする。

具体的な研究方法としては、棚田サミットや大山千枚田の収穫祭等の参加者に対してアンケートを行ない、人々が感動したり望んでいる棚田での体験を明確化する。今後さらに棚田による観光や地域活性化に役立つものをつくる。